

東奥日報

2018年(平成30年)12月21日金曜日(18)

回遊ルートなど提案

中心街の課題研究
八工大生が中間発表

八戸

八戸市の八戸工業大学の学生が14日、同市の八戸まちなか広場「マチニワ」で、中心市街地のまちづくりに関する課題提案の中間報告会を行った。中心街の回遊ルートや横丁の環境整備などについて提言した。

研究活動は八工大と八戸市、第三セクター「まちづくり八戸」の3者が2016年に締結した中心街のまちづくりに関する覚書に基づく事業。土木建築工学科土木工学コースの3年生30人余りが6グループに分かれて発表した。

齊藤雅和さん(21)をリーダーとするグループは、文



研究成果を発表する八工大生

化・観光施設を含む中心市街地の観光者向けの回遊ルートについて発表した。

主な施設を紹介した上で、八戸市庁前の広場を出発点に、「お年寄り」「家族連

れ」「サラリーマン」それぞれルートを設定。十三日町通りを散策し、八戸ポータルミュージアムはっちやマチニワ、八戸ブックスセンターなどを巡るコースなどを提案した。

このルートを周知するため、ホームページを活用したり、マップを作製して駅などに配置するとした。盛岡市出身の齊藤さんは取材に「10月中旬から現地調査するなど研究しており、八

戸のことが分かって面白い」と話した。

担当の橋詰豊講師は「学生にとって現場の声を聞いて、実際の問題を解決するという良い経験となる」と語った。(月館慎司)

※ 「この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです」